



社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-13 虎ノ門実業会館四谷ビル

TEL(03)3357-3741/FAX(03)3357-7444

http://www.jcbl.or.jp/ E-mail:info@jcbl.or.jp

2005年4月7日

## 報道関係各位

マインドスポーツの国際競技会開催と  
学校教育現場へのマインドスポーツ採用をアピール

### - 世界ブリッジ連合会長来日 -

世界ブリッジ連合(本部:パリ)ジョゼ・ダミアニ会長の来日を機に、世界ブリッジ連合・日本チェス協会・国際囲碁連盟(本部:東京)による合同記者会見がこのほど東京・四谷の(社)日本コントラクトブリッジ連盟で行われ、これら3団体による共同声明が発表された。声明では、世界レベルにおいてはブリッジ・チェス・囲碁・チェッカーの国際組織からなる「世界マインドスポーツ連盟」(仮称)を設立し、これら4種目によるマインドスポーツの国際競技会の早期実現をはかること、また国内においてはJOCへの早期加盟および教育現場へのマインドスポーツ導入を推進していくことなどを目標として、欧米に比べてまだ低いマインドスポーツの社会的認知度向上をはかりながら3団体歩調をあわせて取り組んでいくことが確認された。注:「共同声明原文」別紙

ブリッジ、チェス、囲碁、チェッカーは、日本では娯楽や文化の面でしかとらえられていないが、欧米ではマインドスポーツとして確立している。オランダ、アメリカ、フランスなどでは小学校でブリッジ授業を実施しており、中国ではブリッジ・囲碁ともにスポーツとして国家体育総局の管轄におかれているほどである。ちなみに世界ブリッジ連合加盟130カ国のうち、約60カ国がその国のオリンピック委員会に加盟しているなど、マインドスポーツに対する国際社会の認識は日本のはるか先を行っている。記者会見に先立ち、ダミアニ会長は国際囲碁連盟工藤紀夫理事(日本棋院理事長代行)とともに中山成彬文部科学大臣を表敬訪問、世界の現状や子どもたちが自分で考える力を育てるブリッジ、囲碁、チェスなどのマインドスポーツを教育にとりいれることの利点を説明、国家を挙げての理解と支援を要請したほか、日本オリンピック委員会(JOC)との会合では、ブリッジ・囲碁がともにスポーツとして認識されJOC加盟が果たせるよう支援を求めるなど、国内でのマインドスポーツの地位向上に向け、積極的に動き回っていた。同会長は世界中を飛び回って関係各国・機関の調整を行っているが、今回の来日もその一環。

ダミアニ会長は、1994年世界ブリッジ連合会長に就任以来、ブリッジをオリンピックの正式種目にすべくさまざまな活動を続けてきた人物。2002年のソルトレーク冬季オリンピック大会時には近接会場でIOC後援のブリッジ競技会「第4回IOCグランプリ」を開催するなど、ブリッジの正式種目採用は時間の問題というところまでこぎつけていた。しかし、その後、オリンピックそのもののスリム化の動きなどから断念、同様にオリンピック種目入りをめざしていたチェス、チェッカー、囲碁の4種目で、五輪マークをつけた国際競技会開催を提唱し、全4競技が加盟している国際スポーツ競技連盟連合(GAISF)の強力な後押しのもとで国際チェス連盟(本部:パリ)、国際チェッカー連盟(本部:アムステルダム)、国際囲碁連盟(本部:東京)に、世界的なマインドスポーツの連合体設立を早くから呼びかけていた。

#### ♣◇ブリッジとは◇♣

英国の文豪サマーセット・モームが「人間の知力が考え出した最もおもしろく最も知的なゲーム」と評したブリッジは2人対2人の4人で対戦するトランプゲーム。13枚の手札を順番に出して一巡したところで一番強いカードを出した人(ペア)がその4枚1組をとる。手札から推理して自分たちのペアが協力して何組とれるかの競りを行い、競り勝ったペアがその宣言どおりにとれたかどうかで得点を競う。論理的思考、推理力、分析力、記憶力、判断力や戦略的駆け引きの力が求められる競技であることから、世界ブリッジ連合は1995年、国際オリンピック委員会(IOC)からスポーツ競技団体として承認されている。

本件の問い合わせ先: 社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟 (担当:高橋)

Tel:03-3357-3741 Fax:03-3357-7444 E-mail:info@jcbl.or.jp

世界ブリッジ連合 (WBF) / 日本チェス協会 (JCA) / 国際囲碁連盟 (IGF)  
**共同声明**

2005年4月6日  
於 (社)日本コントラクトブリッジ連盟本部

### - 「頭脳ゲーム」のグローバル化

ブリッジとチェスは、既にスポーツ競技としてIOC及び国際スポーツ競技連盟連合(GAISF)に認められています。世界ブリッジ連合は、1999年にオリンピック憲章に則った「国際連盟(IF)」との認定を受けました。囲碁は、IGFが2004年にGAISFに加盟した結果、国際的にはスポーツとして認められましたが、国内的には、伝統的に「文化」として、頭脳ゲームをスポーツとして公認する世界的趨勢とは異なった位置づけをされています。ブリッジ、チェスも日本国内では、同様であります。国外においては、事情は非常に異なり、国際チェス連盟(会員国161)と世界ブリッジ連合(同130)の会員の内、国内でNational Olympic Committeeにスポーツ団体として認可されている団体は、かなりの数に上っています。IGFについていえば、会員66ヶ国中13団体が、National Olympic Committeeまたは国家スポーツ管理機関の認可または準認可団体になっています。中国、韓国もこれに含まれています。これ以外にも、囲碁を、制度上、スポーツとしている国々があります。私達は、世界の頭脳ゲームの団体が、スポーツ団体として組織化されることを望んでいます。「頭脳ゲーム」のグローバル化は、実際的には諸国の頭脳ゲームの団体が「マインド・スポーツ」として公認されることによって実現すると考えます。

4団体の連携推進役であり、IOCやGAISF等国際的スポーツ機関と密接な関係を維持しながら、世界中の関係各団体との調整役もしている世界ブリッジ連合ダミアニ会長の来日を機に、国内の3組織が揃ってJOCと中山文部科学大臣に我々の考えや現状をお伝えすることができました。日本社会へマインド・スポーツの概念を浸透させ、ひいては、教育の現場にマインド・スポーツが採用されるようになるためにも、国内3組織が協力することに意義があると思います。JOCと中山大臣からも、この考えに対して、ご賛同をいただきました。メディアの皆さんにもご理解頂きますようこの機会にお願いしたいと思います。

来年のアジア競技大会(15<sup>th</sup> Asian Games)で、チェスが正式種目となり、国際チェス連盟が、オリンピック運動に於けるマインド・スポーツ団体のパイオニアの一つとして、成果を収めることとなります。ブリッジや囲碁も、2010年、中国で開催されるアジア競技大会を次の目標にすることを検討するきっかけにしたいと思います。

### - 「Intelympic Games」(マインド・スポーツ競技大会)

世界ブリッジ連合、国際チェス連盟、国際チェッカー連盟(会員国50)、国際囲碁連盟の4団体が、国際スポーツ連盟連合(GAISF)の支援の下に、the「Intelympic Games」という名称で、マインド・スポーツ競技大会を組織、開催しようという計画は、世界ブリッジ連合ダミアニ会長の発案でした。昨年10月に、上記4団体とGAISFがモンテカルロに会し、この計画を推進することに同意しました。この大会を組織、開催する推進母体として、4団体とGAISFが「世界マインド・スポーツ連盟(仮称)」を組成することが提案されています。関係団体は、GAISFの年次総会開催時(2005年4月)に、ベルリンで第二回目の会議を行います。

オリンピック大会用に使用された宿泊施設やボランティア集団を事後に活用すれば、社会的経済的効果があるというダミアニ案の考えも含め、IOCの幹部もこの計画には、非公式ではありますが、関心を持っています。

また、マインド・スポーツと教育との関係、マインド・スポーツの普及という観点からも、この計画が実現された場合の効果は大きいと言わねばなりません。

- 最後に、この共同声明の関係者一同、今後とも、オリンピック精神にのっとり、人類の平和と発展のために協調し、貢献して行きたいと思えます。

以上

世界ブリッジ連合会長  
ジョゼ・ダミアニ

日本チェス協会会長代行  
渡井美代子

国際囲碁連盟代表・理事  
工藤紀夫